



Title	英語ライティング授業におけるCALL教室とCLE システムの活用法
Author(s)	村上スミス, アンドリュー
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2018, 18, p. 33-37
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/70432">https://doi.org/10.18910/70432</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 英語ライティング授業における CALL 教室と CLE システムの活用法

村上スミス アンドリュー（言語文化研究科 言語文化専攻）

学生一人一人に端末があり、ネットへのアクセスとともに AV 機器も揃っている CALL 教室が外国語教育において様々なことを可能にしてくれることは想像に難くない。CLE などの授業支援システムも利用すれば、様々なファイル形式のデジタル教材を学生に提供し、課題を与え、色々の問題形式のテストを毎週の練習問題として使うことも可能になる。大阪大学では、サイバーメディア・センターが独自に開発した WebOCMnext という授業支援システムも利用可能である。授業支援システムを使うことにより、CALL 教室などの学内端末のみならず、自宅など学外からも学生がアクセスでき、学習が可能になる。

では、CALL 教室と授業支援システムを実際にどのように活用し、どのような効果が望めるのだろうか。筆者がこの 5、6 年来、CALL 教室と CLE システムを使ってきたが、以下に、英語の Writing 授業でどのように活用してきたかを紹介する。

高校卒業までに学生が身につけた英語の文法力や語彙力、高校生の間、とりわけ大学受験のための勉強において磨きがかかる読解力とともに、大学生になって必要になるのは英語の「書く力」である。文部科学省が掲げる「英語が使える日本人」で真っ先に思い浮かぶのは英語を流暢に話す「会話力」のある人だろうけれど、現代において、「話す英語」とともに重要なのは「書く英語」だと考えられる。日本で生活する上、一部の業界で仕事をする人以外は英語で話す機会はそんなに多くないのに対して、ネットなどを通して、英語で書いてコミュニケーションをとる機会がいくらでもあるように思う。日本にいながらネットで世界中とつながるので、英語で電子メールを送る、

Facebook やブログに英語で書き込む、掲示板に英語で投稿する、Twitter に英語でツイートするなど、その意思があれば、英語で書く機会が多くあるだろう。卒業して会社や研究所に就職する学生はその機会がさらに多くなり、大学院などに進む学生は英語で論文を執筆する機会もある。

大阪大学における英語ライティング授業の目的はアカデミック英語（大学レベルに相応しい、論文などの執筆に必要な英語）で書くことなので、筆者の授業では、基本的な文法や語彙の指導はあまりしない。しかし、幸いなことに、CALL 教室にはネット環境が整っているため、学生自身が必要な単語をオンライン辞書やネット検索ですぐに調べられる。

筆者の授業では、アカデミック・ライティングについて説明するコンテンツを毎週学習させ、関連する exercises (CLE のテスト作成機能を利用して用意) を教室または自宅でやってもらう。そして宿題として、ライティングの課題を毎週 課する。ライティング課題の量は学期の前半は 1 パラグラフ、学期の後半は 5 パラグラフ程度である。

アカデミック・ライティングについて説明するコンテンツとしては、例えば以下のようなテーマについて学習させている。

- ・英語でのパラグラフの概念と構成
- ・論の展開の仕方や立証方法
- ・論文に相応しい文体
- ・論文、レポート、essay の典型的な構成である Five-Paragraph Essay
- ・引用の扱い方や出典の明記の仕方
- ・参考文献リストの形式

上に「文法や語彙の指導はしない」と書いたが、高等学校で覚えた文法を思い出させて、大学でのアカデミック・ライティングにおいて用いられるように促すコンテンツもある。

例えば、高校で学習した接続詞や従属節を利用して大学レベルに相応しい、より複雑な文を書くように仕向ける。最初に簡単な短い分からなる、以下のパラグラフ(A)を示す。

(A) (1) I decided to major in Biology for several reasons. (2) As a child, I enjoyed reading about animals. (3) I had many books about insects, birds, reptiles, and dinosaurs. (4) I liked animals. (5) We had many pets. (6) In high school, I had a good teacher. (7) He made science interesting. (8) He especially made biology interesting. (9) He told us stories about famous biologists. (10) He told us about Linnaeus, Darwin, and Watson and Crick. (11) He said it was interesting to do research in biology. (12) I decided I want to be a biologist.

次に、例えば接続詞を利用して(2)と(3)、(4)と(5)をつなげて、従属節などで(6)、(7)、(8)をつなげてより複雑な文の書き方を説明し、最後に以下のように書き換えられたパラグラフ(B)を示す。

(B) I decided to major in Biology for several reasons. As a child, I enjoyed reading about animals, and I had many books about insects, birds, reptiles, and dinosaurs. I liked animals, and we had many pets. In high school, I had a good teacher who made science, especially biology, interesting. He told us stories about famous biologists like Linnaeus, Darwin, and Watson and Crick. He said it was interesting to do research in biology, so I decided I want to be a biologist.

ここまで CLE にアップロードした PDF フ

ァイルを CALL 教室のセンター・モニターに表示しながら教師から説明する、学生たちにとっては受動的な学びだが、次は説明されたことが理解できたかどうかを試す exercise (CLE ではテストの機能を利用) を学生にやってもらう。例えば以下のような問題に答えてもらう。

Choose the best word to connect the following short sentences together to make one longer sentence.

(1) “Diane is sleepy in class. She stayed up late studying.”

1. and
2. but
3. so
4. because

(2) “Going to university is a good chance to study new subjects. Many students spend their time on clubs and part-time jobs.”

1. and
2. but
3. so
4. because

アカデミック・ライティングのもう一つのテーマとして、文と文をつなげる言葉 transitions (例えば however, further, nevertheless, in contrast, for example など) も学習させる。このとき、上記のパラグラフ(B)を、transitions を用いて、以下のパラグラフ(C)のように書き換えたら文章の流れが良くなることを説明する。なお、transitions が太字になっている。

(C) I decided to major in Biology for several reasons. First, as a child, I enjoyed reading about animals, and I had many books about insects, birds, reptiles, and dinosaurs. Also, I liked animals, and we had many pets.

Furthermore, in high school, I had a good teacher who made science, especially biology, interesting. He told us stories about famous biologists like Linnaeus, Darwin, and Watson and Crick. He said it was interesting to do research in biology, so I decided I want to be a biologist.

この transitions の理解を試す exercise には、例えば以下のような問題が含まれる。

For each question, choose the best transition to show the relationship between the two sentences.

(3) “There were many great women writers in Heian Japan. Murasaki Shikibu wrote the Tale of Genji.”

1. Similarly
2. Surely
3. However
4. For example

(4) “Every Japanese high school student learns English. Some American high schools do not require their students to study a foreign language.”

1. In the same way
2. Consequently
3. Specifically
4. In contrast

上に説明した例の目的は、学生がすでに高校で習った文法や表現を思い出させ、ライティングで活躍させることを促すことである。語彙に關しても、同様の目的で学生が受験勉強で学習したはずの単語を再確認しライティングで用いるように仕向ける exercises もやってもらう。これは主にアカデミック英語に相応しい、高度な単語と一般的な単語の違いを意識させるこ

とに焦点を置く。例えば以下のような問題に答えてもらう。

(5) Match each vocabulary word with the word having a similar (though not exactly the same) meaning.

1. Consequently	A. Change
2. Innovative	B. Keep
3. Maintain	C. New
4. Modification	D. So
5. Optimum	E. Best
6. Subsequently	F. Later

(6) Match each vocabulary word with the word having a similar (though not exactly the same) meaning.

1. Ascertain	A. Explain
2. Commence	B. Make easier
3. Facilitate	C. End
4. Elucidate	D. Start
5. Substantiate	E. Find out
6. Terminate	F. Prove

また、以下の exercise では、原爆の被害に関するパラグラフのそれぞれの空所を埋めるのに、どちらの表現がよりアカデミックなのかを選んでもらう。

(7) For each blank in the paragraph below, choose the word or expression most suitable for Academic Writing.

“This building ([ A ] 1) was [ B ] two kilometers from the [ C ], but it [ D ] damage. [ E ] [ F ] ground zero suffered less damage, and those [ G ] five kilometers [ H ] from ground zero were [ I ]. [ J ] the bomb’s destructive force was not [ K ] the blast. People who were [ L ] in [ M ] up to five kilometers from ground zero survived the blast,

but nevertheless were [ N ] radiation, and [ O ] symptoms of radiation sickness over the [ P ] months and years.”

- A. (a) see Figure / (b) look at Picture
- B. (a) nearly / (b) almost
- C. (a) place the bomb landed / (b) bomb's point of impact
- D. (a) suffered extensive / (b) got a lot of
- E. (a) Buildings and things / (b) Structures
- F. (a) even farther / (b) more distant
- G. (a) around / (b) approximately
- H. (a) distant / (b) away
- I. (a) almost undamaged / (b) nearly intact
- J. (a) However, / (b) But
- K. (a) only / (b) limited to
- L. (a) there / (b) present
- M. (a) locations / (b) places
- N. (a) showered with / (b) exposed to
- O. (a) came down with / (b) developed
- P. (a) subsequent / (b) next

これまで紹介してきた exercises は、学生がそれぞれ端末の画面に向かって、一人でするものである。選択肢をクリックで選んだり空所をキーボードでタイプして埋めたりすることを除けば、従来のペーパー・ベースの小テストと何の変りもない。毎週のライティング課題もキーボードでタイプを打つこと以外は同様である。これでは、CALL 教室を十分に活躍していると言えないかも知れない。さらに、文部科学省が目標として掲げるアクティブラーニングにもなっていないかも知れない。

しかし、上記の exercises やライティング課題に加えて、授業時間内に CALL 教室で学生 2、3 名が共同でする activities も用意すれば、せっかくの CALL 教室も十分に活躍でき、アクティブラーニングにもなるのである。

例えば、1 パラグラフ単位のアカデミック・ライティングをある程度マスターしてから紹

介する Five-Paragraph Essay の構成を学習させるとき、書き出す前に計画 Outline (骨子を書き出したもの) を作っておくことも大事だと説明する。そこで、あらかじめ決めたテーマを与え、学生 2 人ずつのグループに分けて、Five-Paragraph Essay を書くための計画になる Outline をそれぞれのグループに学生端末で作成させる。一定の時間が過ぎたら、それぞれのグループが作成した Outline を次々にセンター・モニターに表示させて、評価してフィードバックを返す。

もう一つの例として、どのライティング課題や論文でも、提出する前に見直して校正・添削することの重要さを強調するための activity を紹介する。学生がよく犯す間違いや、アカデミック・ライティングとして相応しくない表現を複数含むパラグラフを教師が用意し、学生数名ずつのグループに見てもらい、書き直してもらう。例えば以下のようなパラグラフである。

“Nowadays, more and more teenagers are smoking. Why do they wanna start smoking, and what'll happen if they do? First, I'm gonna write about causes. There are a lot of causes, but I think the main one is that they wanna look grown up. They think smoking looks cool. Besides, maybe they think it'll help them relax. They are fools, so they think they can get some good effects, but they don't know there are a lot of bad effects. Smoke stinks, and bugs other people. Besides, it's bad for your health! You can get lung cancer. And the bad effects get bigger if you keep smoking. So don't be stupid! Even if you've started smoking, you should stop now.”

このパラグラフに含まれる、アカデミック英語に相応しくない表現として、俗語 (wanna, gonna, stinks, bugs) や Nowadays, more and more, good, bad など、より高度な言葉に書き換えられる単

語、一人称の “I”、what’ll などの短縮形、fools や stupid など主観的な表現、感嘆符などが含まれているが、学生らがグループで話し合いながら間違いに気づき、例えば以下のように修正してもらうことを期待する訳である。なお、修正した箇所は網掛けで表している。

“Currently, increasing numbers of teenagers are smoking. Why do they want to start smoking, and what will happen if they do? First, causes will be discussed. There are many causes, but [\*] the main one is that they want to look adult. They think smoking looks cool. Further, perhaps they think it will help them relax. They are uninformed, so they think they can obtain some benefits, but they do not know that there are numerous disadvantages. Smoke has an unpleasant odor, and bothers other people. Moreover, it is detrimental to one’s health[\*\*]. Smokers can develop lung cancer. Further, the detrimental effects increase if they continue smoking. So young people should not be ignorant[\*\*]. Even if they have started smoking, they should stop now.”

\* “I think” を削除

\*\* 感嘆符を削除

上に紹介した、英語ライティング授業での活用法以外にも、CALL 教室と CLE システムを色々の形で外国語学習に貢献できる。Speaking (オーラル・コミュニケーション) 授業ではヘッドホンとマイクを通して学生たちに任意的なペアで会話させたり、発表型のオーラル・コミュニケーション授業では毎回、前半に学生数名のグループにあるテーマでネット・リサーチをさせて、授業の後半に調べたことをまとめて発表してもらうことなどが出来る。リスニング授業でも DVD やネットから取り込んだ動画や音声でリスニング問題を作成し練習させる

ことも出来る。その他にも、筆者には思いつかない、様々な活用法もあるはずである。

パソコンを使う授業と言えば、学生が一人ずつ黙々と画面に向って受動的に学ぶイメージがあるかも知れないけれど、上記のように、CALL 教室と授業支援システムを有効的に活用すれば、学生本人たちが学びに関与するアクティブラーニングが実現できる。今の若い人々は画面を通してヴァーチャルにとるコミュニケーションを十分リアリティーのある、本物のコミュニケーションとして捉えている。外国語によるコミュニケーションを学習者に可能にする外国語教育も画面を通しての様々な教授法を取り入れなければならない。

※ ご興味のある読者のために、上に紹介した exercises の回答を下に記す。

- (1) 4
- (2) 2
- (3) 4
- (4) 4
- (5) 1 – D, 2 – C, 3 – B, 4 – A, 5 – E, 6 – F
- (6) 1 – E, 2 – D, 3 – B, 4 – A, 5 – F, 6 – C
- (7) A – (a), B – (a), C – (b), D – (a), E – (b), F – (b), G – (b), H – (a), I – (b), J – (a), K – (b), L – (b), M – (a), N – (b), O – (b), P – (a)